

専大校友を訪ねて



東京消防庁消防総監に就任 清水 洋文さん(昭61法)

今年4月に第28代東京消防庁消防総監に就任した。花塚辰夫氏(昭30法)、小宮多喜次校友会長(昭40法)に次いで3人目の専大卒の消防総監となった清水さん。首都の防災を担う約1万9000人の職員のトップとして、消防の仕事と、専大の「質実剛健・誠実力行」の学風や「報恩奉仕」という建学の精神には通じるものがある」と力強く語る。

地元の消防団に所属していた父や、横田基地で消防士をしていた伯父の背中を見て育った。社会貢献性が高くやりがいのある消防の仕事に自然と興味を持ち、早くに自らの道を定めた。高校卒業後、迷うことなく東京消防庁に入庁。狹窪消防署を皮切りに都内各地の消防署で業務に励んだ。企画・管理部門での職務経験も豊富で、消防学校のカリキュラム作成や住宅用火災警報器設置の普及促進、テロ災害に向けた訓練の企画などにも従事した。

日々厳しい業務をこなす一方で「公務員として法律知識を身につけた」と思い、入庁翌年に専大二部法学部に入学し、刑法や行政法などを学んだ。当時時勢に立っていた日高義博理事長の講義が特に思い深い」と話す。東京消防庁には専門系という採用区分があり、現役職員も能力認定という形で同じ試験を受けることができる。清水さんは29歳のときに法律分野の試験に挑戦し合格。専大で学んだ知識が役立った。その後のキャリアに大きな影響を与えたという意味で人生の転機になった」と振り返る。

都民の生活と消防の発展に尽くす

清水さんはこれまで、地域とのふれあいを大切にしながら都民の安全・安心のために尽力してきた。消防総監は東京消防庁のトップであると同時に、全国消防長会やアジア消防長協会の会長職も兼務する。引き続き都民のために尽くすとともに、大局的な視点で全国、そして広くアジアの消防の発展にも努めたいと表情を引き締めた。

清水さんはこれまで、地域とのふれあいを大切にしながら都民の安全・安心のために尽力してきた。消防総監は東京消防庁のトップであると同時に、全国消防長会やアジア消防長協会の会長職も兼務する。引き続き都民のために尽くすとともに、大局的な視点で全国、そして広くアジアの消防の発展にも努めたいと表情を引き締めた。

清水さんはこれまで、地域とのふれあいを大切にしながら都民の安全・安心のために尽力してきた。消防総監は東京消防庁のトップであると同時に、全国消防長会やアジア消防長協会の会長職も兼務する。引き続き都民のために尽くすとともに、大局的な視点で全国、そして広くアジアの消防の発展にも努めたいと表情を引き締めた。

清水さんはこれまで、地域とのふれあいを大切にしながら都民の安全・安心のために尽力してきた。消防総監は東京消防庁のトップであると同時に、全国消防長会やアジア消防長協会の会長職も兼務する。引き続き都民のために尽くすとともに、大局的な視点で全国、そして広くアジアの消防の発展にも努めたいと表情を引き締めた。

Jリーグ職員 鈴木氏(平7経営)が講演

次世代の働き方学ぶ

社会の変化に伴い、働きの多様性が広がってPO理事という二つの肩書を持つ鈴木順氏(平7経営)が登壇、学生たちが熱心に語りかけた。写真は毎回、外資系企業やベンチャー企業への就職、資格取得しての独立、起業などさまざまな「働き方」をテーマに取り上げ、学生に自身のキャリアについて深く考える機会を提供している。



講演前半は、Jリーグが現在力を入れている「共創プロジェクト」には、多くの学生が「印象深かった」との感想を寄せた。後半は「私の履歴書」と題し、企業で長くマーケティング業務に携わった後にサッカーの世界に飛び込んだユ

宮崎裕助文学部教授が表象文化論学会の第12回学会賞を受賞した。7月3、4日開催の表象文化論学会大会で授賞式が行われる。受賞したのは「ジャック・デリダ―死後の生を与える」(2020年、岩波書店)。フランス現代思想を代表する哲学者ジャック・デリダの晩年の思想を読み解き、デリダ像を一新した。宮崎教授

宮崎裕助文学部教授が表象文化論学会の第12回学会賞を受賞した。7月3、4日開催の表象文化論学会大会で授賞式が行われる。受賞したのは「ジャック・デリダ―死後の生を与える」(2020年、岩波書店)。フランス現代思想を代表する哲学者ジャック・デリダの晩年の思想を読み解き、デリダ像を一新した。宮崎教授

基準が「自分がやりたい仕事内容」から「誰かの役に立ってるか」に変化した」と自身の経験を語った。

調布南高校と高大連携協定 17校目 教育交流プログラム実施



荒井校長(左)と佐々木学長

専修大学は、東京都立調布南高校(東京都調布市)と高大連携に関する協定を締結した。今後、高校生が大学の授業を聴講する「高大連携聴講生」の受け入れや、大規模な「教科研修生」として高校で研修活動を行うなどの教育交流プログラムが実施される。

5月18日、生田キャンパスで調印式が行われ、佐々木重人学長と荒井篤校長が協定書に調印した。佐々木学長が「お互いの教育理念に通じるものがあると感じている。我々の持っている力を活かしてほしい」と協定の

意義を話すと、荒井校長は「この縁を生徒たちの成長に生かしたい」と心じた。本学では、高校と大学が教育交流を通じて相互理解を深め、教育の活性化を図ることを目的に、2002年度に高大連携のための組織を設置。今回の締結で高大連携協定校は17校目となる。

調布南高校は、東京都立調布南高校(東京都調布市)と高大連携に関する協定を締結した。今後、高校生が大学の授業を聴講する「高大連携聴講生」の受け入れや、大規模な「教科研修生」として高校で研修活動を行うなどの教育交流プログラムが実施される。

調布南高校は、東京都立調布南高校(東京都調布市)と高大連携に関する協定を締結した。今後、高校生が大学の授業を聴講する「高大連携聴講生」の受け入れや、大規模な「教科研修生」として高校で研修活動を行うなどの教育交流プログラムが実施される。

校友会定時総会2021 開催のお知らせ
日時=7月11日(日) 10時30分~(受け付け開始10時予定)
場所=JR・私鉄・地下鉄各線・新宿駅から徒歩5分「京王プラザホテル新宿」
会費=2000円
参加申し込み締め切り=6月30日(水)

五輪企画展で 所蔵資料公開
相模原市立博物館(神奈川県相模原市)で開催中の企画展「相模原にオリンピックがくる」(7月4日まで)に、校友会相模原支部の支部長で、体育会力一部OB会長でもある渋谷隆宏さん(昭33商経)の私物約30点が展示されている。

西川利行氏(にしがわ・としゆき) 名誉教授・元法学部教授
5月21日、87歳で死去。1961年から2004年まで在職。専門は経済法。

専修大学法律曹会 無料法律相談会
校友会職域支部の専修大学法律曹会主催する「無料法律相談会」(後援:校友会、今村法律研究所)の開催予定は次の通り。感染防止対策のため、同競技の役員を務める。

玉水俊哲氏(たまみず・としあき) 元文学部教授
5月15日、88歳で死去。1994年から2003年まで在職。専門は生活論。

専修大学のユニークで豊かな借景
技術館など、国内有数の博物館探訪も堪能できます。加えて、隣接する世界屈指の神保町古書街の存在を忘れるわけにはいきません。

緑地帯
の喧騒を離れた豊かな自然を存分に満喫できます。源頼朝の重臣稲毛三郎重成が枳形城を築いたという枳形山の展望台に上れば、四方の絶景に思わず息をのむことでしょう。そして、この緑地にも、由緒(そう)と緑の科学館

内田欽三
度。各日程ともに①16時~、②17時~の2枠【受け付け】事前予約制(予約締め切り:相談日の前日16時)
※当日、相談者が電話をかける。
團圓今村記念法律事務所
03-3264-1721